

政策の選択肢について

1. 原子力:「委員の任意数字アンケート集約」ではなく、「論理的・政策整合的」に定めること

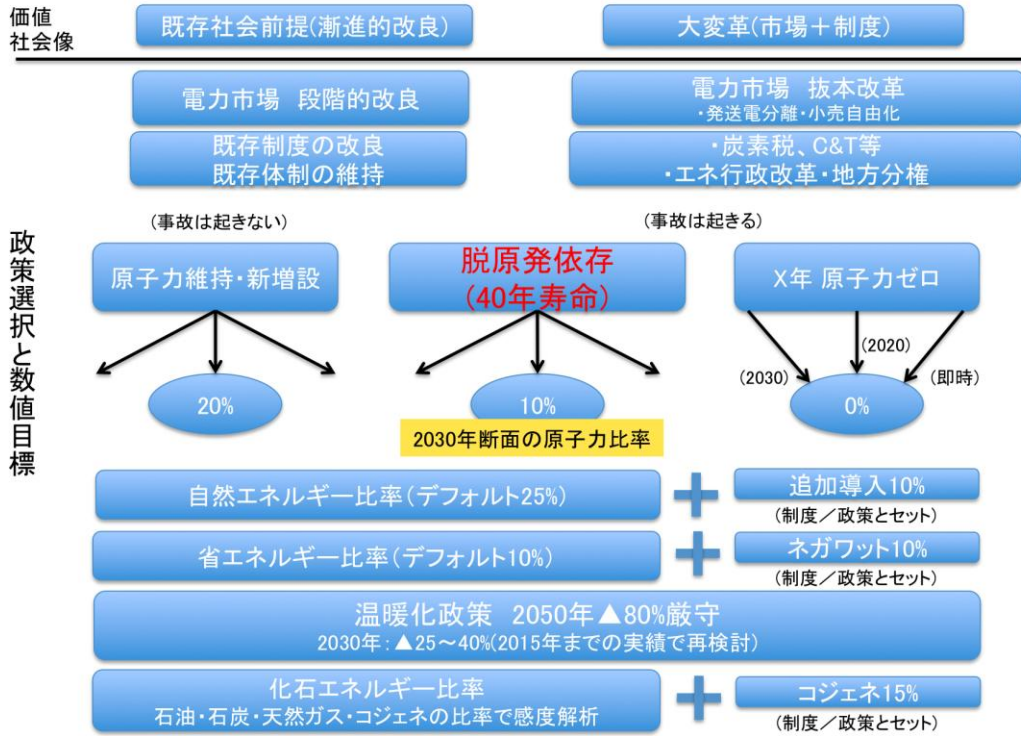
- (1) 各委員が勝手に出した数字を適当に振り分ける事務局提案の選択肢は、何のロジックもなく不適切である。大別すると、
 - ① 従来どおりの「原子力安全神話」のまま政策を考えるのか
 - ② 「原子力事故は起きうる」ことを前提に考えるか
- (2) これまでの政策の流れを論理的に整理すれば、以下の3つとなるはず
 - ① 脱原発依存(1): 即時~10年程度(2020年)~20年程度(2030年)
 - ② 脱原発依存(2): 40年寿命による廃炉
 - ③ 原発依存: 新增設を含む ★ 新增設のリアリティへの説明責任
- (3) 54基の原発を個別に見てゆくこと
 - ① 脱原発依存(1): 原発0%(2030年)
 - ② 脱原発依存(2): 原発10%(2030年で5~15%の幅から)
 - ③ 原発依存: デフォルトは原発20%(2030年で15~30%の幅から)

2. 自然エネルギー・省エネルギー・コジェネ、その他

- (1) 自然エネルギー
 - ① デフォルト: 25%
 - ② 脱原発依存(1) シナリオは35%+追加的な政策パッケージ
- (2) 省エネルギー
 - ① デフォルト: 10%
 - ② 脱原発依存(1) シナリオはさらに節電発電所10%+追加的な政策パッケージ
- (3) コジェネ
 - ① デフォルト: 15%
 - ② 脱原発依存(1) シナリオはさらに追加15%+追加的な政策パッケージ

3. 温暖化政策:2020年については数値目標モラトリアム

- (1) 【厳守】2050年80%削減を厳守
- (2) 【モラトリアム】2020年についてはいったん保留(2015年に見直し)
- (3) 【暫定ベストエフォート】2030年は25~40%削減を目指す(真水分は別途検討)



脱原発依存のペース

